

# 箱根ラリック美術館

LALIQUE MUSEUM, HAKONE

No. 05-013-2010作成  
新築/外構・景観  
美術館・博物館/飲食/物販

発注者	篠保全株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO <sub>2</sub> 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	KAJIMA DESIGN		E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
施工	鹿島建設		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他	

## 自然と建物が一体となった環境と人にやさしい庭園型リゾートミュージアム

### 地域生態系との調和

施設は箱根仙石原のほぼ中心に位置し、市街地と観光・保養地の中間に位置する。敷地内に残された仙石原本来の自然を最大限生かしながら、美術館棟・ショップ棟・レストラン棟の3棟をバランス良く配置した施設で、来館者が四季の移ろいの中で、季節や時間、光と霧の変化を楽しむ庭園型リゾートミュージアムとなっている。地域生態系の歴史調査、既存樹木の綿密な調査、周辺の植生調査などを行い、この土地の植生であるオオモミジ・ケヤキ群集の保存、地域生態系の育成を施設構成の基本骨格とし、仙石原本来の自然の姿を再生している。オープンテラスの天蓋となる3本の樺は、人の手になる建築と神の手になる自然との新しい出会いを象徴している。これら生態系の保存、復元によって仙石原ならではの環境をまもるとともに、補植によりその環境を育てる施設としている。補植の樹木、草花は環境省の特定外来生物法の精神を遵守することで地域生態系との調和を図っている。



新緑のカフェテラス



配置図



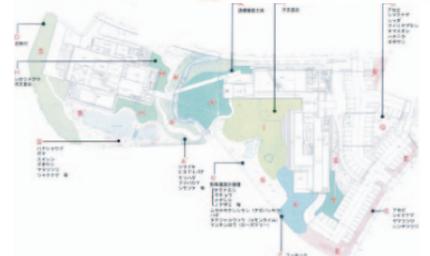
樺の天蓋とオリент急行



四季折々の表情を見せる中庭



植栽計画図(高木)



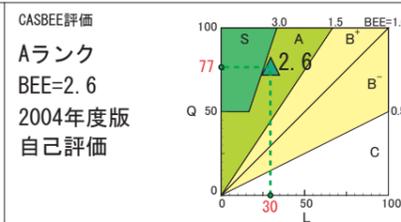
植栽計画図(低木)



潜在植生図

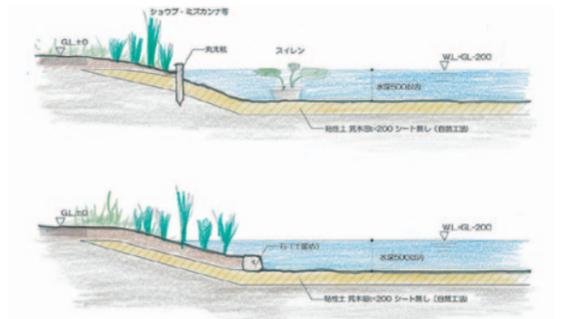
建物データ

所在地	神奈川県足柄下郡箱根町
竣工年	2004年
敷地面積	13,004m <sup>2</sup>
延床面積	4,586m <sup>2</sup>
構造	RC造(屋根S造)
階数	地下1階、地上2階



### 動植物への配慮

美術館棟とショップ棟の間を流れる小川沿いを自然度の高い森とし、蝶の森とすべく種々の草花を導入し、蝶の巣箱を設置した。ビオトープにより復元された蝶の森は、来館者が植物や昆虫・風・木漏れ日・水音など様々な自然とふれあいながらゆったりとした時間を過ごす散策路となっている。寄生植物を残した樹木群に沿う睡蓮の池は自然土を突固めるという伝統的な工法でつくり、両生類や昆虫が生息できる池とした。



ビオトープ断面図



復元・育成された蝶の森



蝶の巣箱



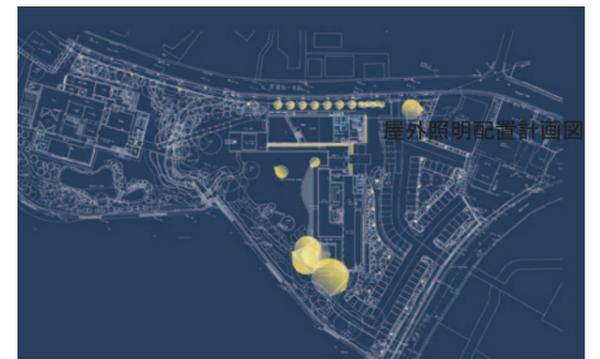
自然素材で造られた睡蓮の池

### 周辺環境・自然との融合

外構照明は樹木や生物に配慮し、シミュレーションにより必要最小限の光にとどめ、且つ発熱量の少ないLED照明をベースとした。建物は既存樹木の高さを超えないように景観に配慮し、市街地との接点の擁壁は建設時に発生した敷地内の転石を使用し、地域の伝統的な工法である箱根積を採用するなど周辺環境との調和に配慮した。川沿いの風と重力換気を利用した自然換気、深い軒による日射制御など、施設と自然がうまく融合した施設となっている。



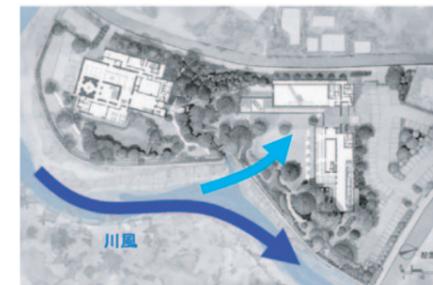
生態系に配慮した屋外照明



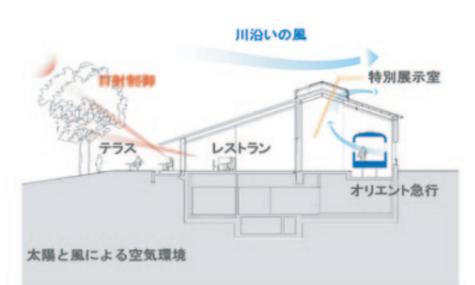
屋外照明シミュレーション



自然石を利用した箱根積



早川の風



自然換気と日射制御

### 設計担当者

統括：小菅克己/建築：小菅克己、篠田秀樹、宮田雅章、小野和幸、土田耕太郎/構造：小川 浩、井出文雄、設備/橋本洋、太田浩司  
/インテリア/中村嘉樹、新田法子/外構：堀 眞人

### 主要な採用技術(CASBEE準拠)

- Q3. 1. 生物環境の保全と創出(外構緑化、建築緑化、地域の郷土種への配慮、野生小動物の生息域の確保、ビオトープ)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮(建物配置や形態のまちなみとの調和、地域性のある素材、歴史性の継承)